

西中学校だより



# 一本の樹

校訓 しなやかに すこやかに

令和6年10月31日  
第7号  
上尾市立西中学校長  
宮田 純生

## いじめ撲滅協調月間

校長 宮田 純生

11月は、埼玉県で、「いじめ撲滅強調月間」に制定し、いじめ問題の根絶に取り組んでいます。本校でも「いじめの見逃し0」を目指していますが、学校の中で「これはいじめでは」と言えることも発生しています。

「いじめ防止対策推進法」という法律があります。この法律は、子どもたちが安心して学習や活動に取り組めるために、いじめをなくすようにする。いじめとわかっていながら、そのままにすることがないようにする法律です。

そして、第4条には、「児童等は、いじめを行ってはならない」と定められています。つまり、いじめは法律で禁止されているのです。

いじめとは、学級や学校の人から攻撃されたり、無視されたりすることによって、心や体に痛みを感じることです。

いじめには、「からかい」、「嫌がらせ」、「悪口」、「陰口」、「無視」、「仲間外し」、「脅し」、「暴力」、「持ち物を隠される」、「盗まれる」、「落書きをされる」、「無理矢理嫌なことをさせられる」、「命令される」、「わざとぶつかる」、などがあります。周囲にこんなことをされている人はいないでしょうか。

いじめは仲間との信頼関係を根本から壊していきます。相手に敵意しか抱かせない卑劣な行為です。「いじめられた人」は「いじめをした人」のことを信用したり、よい感情を持てたりするのでしょうか。こんな状況では居心地の悪い学校になっていきます。誰もが「居心地のよい学校にしたい」と思っているはずですが。

それでは、なぜいじめはなくならないのでしょうか。

いじめの多くの場合が、いじめる人やグループが「自分のストレス発散」や「からかうことが面白い」と感じていじめることが多いと思います。

周囲の人がその行為を見たときに止めればよいのですが、面白がって一緒になっていじめを行う人がいるといじめはエスカレートします。

さらにその周りに、「見て見ないふりをする人」、「関係ないと思う人」、「気づけない人」がいるといじめはなくなりません。

そして、「一緒になってやらないと自分がいじめられると思う人」がいる場合はどんな結果になるのでしょうか。

「注意したら自分がいじめられる」、「本当はやめろと言いたいのと言えない」、「いじめられているのは恥ずかしくて誰にも言えない」、そうした周りの人たちの気持ちが、いじめを広げていく原因になります。

一人一人が様々なことを尊重（相手を尊重する）するそんな気持ちが重要なのではないのでしょうか。尊重すれば、人の嫌がることはできないはずです。

